

乳母車うばぐるま

三好達治みよし たつじ

母よ――

淡あはくかなしきもののふるなり
紫陽花あぢさゐいろのものアワのふるなり
はてしなき並樹なみきのかけを
そうそうと風のふくなり

時はたそがれ

母よ 私の乳母車うばぐるまを押せ

泣ゆふきぬれる夕陽ゆふひにむかつて
隣々りんりんと私の乳母車うばぐるまを押せ
ムカッテ

赤ふさい総びろある天鷲おとど絨ぼうしの帽子ぼうしを

つめたき額ひたひにかむらせよ
ヒタイ

旅ヒタイいそぐ鳥ヒタイの列ヒタイにも

季節ヒタイは空ヒタイを渡わたるなり

淡あはくかなしきもののふる

紫陽花あぢさゐいろのものアワのふる道アワ

母アワよ 私アワは知アワつてゐる

この道アワは遠アワく遠アワくはてしない道アワ

〈出典 『雪』(童話社、二〇一〇年)〉

【著者】三好達治(みよし たつじ)

一九〇〇(明治三三)年―一九六四(昭和三九)年

詩人。大阪府の生まれ。

【著書】『測量船』『駱駝の瘤にまたがって』『詩を読む人のために』など